

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2015 年 10 月 1 日(01.10.2015)



(10) 国際公開番号
WO 2015/146948 A1

- (51) 国際特許分類:
A61K 8/73 (2006.01) A61K 8/87 (2006.01)
A61K 8/55 (2006.01) A61Q 1/02 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2015/058828
- (22) 国際出願日: 2015 年 3 月 24 日(24.03.2015)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2014-068262 2014 年 3 月 28 日(28.03.2014) JP
- (71) 出願人: 株式会社コーセー(KOSE CORPORATION) [JP/JP]; 〒1038251 東京都中央区日本橋 3 丁目 6 番 2 号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者: 五十嵐 啓二(IGARASHI Keiji); 〒1140005 東京都北区栄町 4 8 番 1 8 号 株式会社コーセー研究所内 Tokyo (JP).
- (74) 代理人: 特許業務法人 小野国際特許事務所 (THE PATENT CORPORATE BODY OF ONO & CO.); 〒1010024 東京都千代田区神田和泉町 1-1 3-1 水戸部ビル 4 階 Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JP, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).
- 添付公開書類:
— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

(54) Title: COSMETIC

(54) 発明の名称: 化粧品

(57) Abstract: The present invention addresses the problem of providing a cosmetic which can be removed satisfactorily from fingers or a small tool, can spread smoothly on the skin, can form a non-sticky and uniform cosmetic film, can be applied beautifully, and has a long-lasting cosmetic effect. The cosmetic which overcomes the problem is characterized by comprising the following components (a) to (c): (a) agar; (b) a hydrophobic modified polyetherurethane represented by general formula (1) $R^1-\{(O-R^2)_k-OCONH-R^3[-NHCOO-(R^4-O)_n-R^5]_h\}_m$ [wherein R^1 , R^2 and R^4 may be the same as or different from one another and independently represent a hydrocarbon group; R^3 represents a hydrocarbon group which may have a urethane bond; R^5 represents a linear, branched or secondary hydrocarbon group; m represents a numeral value of 2 or greater; h represents a numeral value of 1 or greater; and k and n independently represent a numeral value ranging from 0 to 1000]; and (c) a phospholipid.

(57) 要約: 本発明は、指や小道具への取れが良好で、皮膚上で滑らかに伸び広がり、べたつきがなく均一な化粧膜が形成され、美しく仕上がりとともに、その化粧効果が長時間持続する化粧料を提供することを課題とする。当該課題を解決した化粧料は、次の成分 (a) ~ (c) : (a) 寒天 (b) 下記一般式 (1) : $R^1-\{(O-R^2)_k-OCONH-R^3[-NHCOO-(R^4-O)_n-R^5]_h\}_m$ (1) [式中、 R^1 、 R^2 および R^4 は、互いに同一でも異なっても良い炭化水素基を表し、 R^3 はウレタン結合を有していても良い炭化水素基を表し、 R^5 は直鎖、分岐鎖または 2 級の炭化水素基を表し、m は 2 以上の数であり、h は 1 以上の数であり、k および n は独立に 0 ~ 1000 の範囲の数である。] で表わされる疎水変性ポリエーテルウレタン (c) リン脂質 を含有することを特徴とする。

WO 2015/146948 A1

明 細 書

発明の名称：化粧料

技術分野

- [0001] 本発明は、指や小道具への取れが良好で、塗布時に滑らかに伸び広がり、べたつきがなく、均一で美しい仕上がりが得られ、さらに化粧持ちにも優れる化粧料に関する。
- [0002] 従来より、化粧料には、使用性や安定性の向上等を目的として種々の増粘剤が使用されており、例えばキサンタンガムなどの天然高分子や、カルボキシビニルポリマーなどの合成高分子も利用されている。このような合成高分子の一つとして、親水基部を骨格とし、末端に疎水性部分を有し、水性媒体中で疎水性部分同士が会合して増粘作用を示す疎水変性ポリエーテルウレタンが知られており、例えば、疎水変性ポリエーテルウレタンとキサンタンガムまたはカルボキシビニルポリマーを併用した化粧料が開示されている（特許文献１）。しかしこの化粧料は、仕上がりにべたつきがあり、また化粧持続性に劣るなどの問題があった。
- [0003] また疎水変性ポリエーテルウレタンを使用した化粧料において、低～中粘度域での粘度安定性や感触の改善を目的として、寒天やジェランガムなどを使用して形成したゲルを粉碎しマイクロゲルとして、疎水変性ポリエーテルウレタンに対し特定の配合比で併用する技術が提案されている（特許文献２）。しかし、この化粧料は製造工程が煩雑である上、感触などが特有であり、汎用性に欠けるという欠点がある。
- [0004] 一方、化粧料の中には、その表面をパフやマット等の小道具で取って肌に塗布する形態のものがあるが、小道具への化粧料の取れ易さや、小道具で塗布する際の展延性が不十分な場合、ムラづきが生じるなどして美しい仕上がりが得られないため、小道具での使用に適した特性を備えていることも重要である。本出願人は既に、充填時の成型方法により小道具への取れ等を改善する技術を提案しているが（特許文献３）、製造方法に制約されることなく、小道具への取れ等を向上し得る手段も必要とされている。

先行技術文献

特許文献

[0005] 特許文献1：特開2000-239120号公報

特許文献2：特許第4979095号公報

特許文献3：特開平7-17827号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0006] 本発明は、指や小道具への取れが良好で、皮膚上で滑らかに伸び広がり、べたつきがなく均一な化粧膜が形成され、美しく仕上がるとともに、その化粧効果が長時間持続する化粧持ちに優れた化粧料を提供することを課題とする。

課題を解決するための手段

[0007] 本発明者は上記課題を解決すべく鋭意研究を行った結果、寒天を特定構造の疎水変性ポリエーテルウレタンと組み合わせ、さらにリン脂質を併用することにより、指や小道具への取れが滑らかで、皮膚上での展延性にも優れ、べたつきがなく、均一でムラづきのない美しい化粧膜を形成することができ、さらに化粧持ちにも優れたものとなることを見出し本発明を完成するに至った。

[0008] すなわち本発明は、次の成分（a）～（c）：

（a）寒天

（b）下記一般式（1）：



〔式中、 R^1 、 R^2 および R^4 は、互いに同一でも異なっても良い炭化水素基を表し、 R^3 はウレタン結合を有していても良い炭化水素基を表し、 R^5 は直鎖、分岐鎖または2級の炭化水素基を表し、 m は2以上の数であり、 h は1以上の数であり、 k および n は独立に0～1000の範囲の数である。〕

で表わされる疎水変性ポリエーテルウレタン

(c) リン脂質

を含有することを特徴とする化粧料である。

発明の効果

[0009] 本発明の化粧料は、皮膚上での展延性が良好で、べたつきがなく、均一な化粧膜が形成されるため、美しい仕上がりが得られ、その持続性にも優れるものである。またパフやマット等の小道具を使用した場合にも、比較的軽く表面を押さえるだけで速やかに一定量の化粧料が小道具へ均一に付着し、塗布する際にも、皮膚上で滑らかに伸び広がるため、均一でムラづきのない美しい仕上がりの化粧膜を形成することができる。

図面の簡単な説明

[0010] [図1]本発明の化粧料を収容する容器の一例について、蓋を取り去った状態の平面図である。

[図2]図1の容器の部分縦断面図である。

[図3]本発明の化粧料を塗布する際に使用されるパフの一例である。図中、(a)は平面図、(b)は側面図、(c)は底面図である。

[図4]試験例1において、バイオスキンプレートに本発明の化粧料を塗布した化粧膜を、共焦点レーザー顕微鏡を用いて撮影した立体画像である。(a)はバイオスキンプレートに化粧料を伸ばして塗布した状態、(b)は塗布した後さらにスポンジで3回叩き込みをした後の状態を示す。

[図5]試験例1において、化粧膜に押しつけたプローブを引き離す際の荷重値を示す図である。

発明を実施するための形態

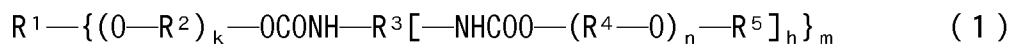
[0011] 本発明に用いられる成分(a)の寒天は、公知の天然高分子であり、その産地、起源等は問わず何れのものも使用可能である。また、この寒天は、ゼリー強度を調整するために、酸処理して分子を切断させた、いわゆる低強度寒天(特開平5-317008号公報に開示)を用いても良い。成分(a)のゼリー強度は、特に限定されないが、 $20 \sim 2000 \text{ g/cm}^2$ のものが好ましく、より好ましくは $30 \sim 1000 \text{ g/cm}^2$ である。ここでゼリー強度

とは1.5質量%（以下、単に「%」と記す）となるように寒天を水に加熱溶解し、20℃で15時間放置、凝固せしめたゲルについて、その表面1cm²当たり20秒間耐え得る最大質量のことを言う（日寒水式測定法）。

[0012] 本発明で用いられる成分（a）寒天の含有量は、特に制限されるものではないが、化粧料全量中0.05～3%が好ましく、0.1～2%がより好ましい。この範囲であれば、寒天によるゲル化力が適度に作用し、小道具等への取れや肌へののび広がりが良好で均一な化粧膜が得られる。また後述するリン脂質処理粉体や成分（d）の粉体を配合した場合に、これらの粉体の分散安定性が向上し、色ムラを抑制して美しい仕上がりとなり、さらに経時での化粧持ちも向上する。

[0013] 本発明の化粧料は、成分（a）寒天を、例えば、水などの適当な溶媒中に他の原料とともに必要に応じて60～95℃程度に加温して溶解ないし分散させた状態で溶融充填するなどして化粧料の全部または一部を増粘ないしゲル化させるものであり、予め寒天をゲル化させた後、このゲルを粉碎してミクロゲルとして配合する態様のものは含まない。

[0014] 本発明に用いられる（b）疎水変性ポリエーテルウレタンは、親水基部を骨格とし、末端に疎水性部分をもつ両親媒性コポリマーであり、水性媒体中でコポリマーの疎水性部分同士が会合し増粘作用を示す会合性増粘剤である。成分（b）は下記一般式（1）で表わされる。



[0015] 上記式（1）中、R¹、R²およびR⁴は、互いに同一でも異なっても良い炭化水素基を表し、R³はウレタン結合を有していても良い炭化水素基を表し、R⁵は直鎖、分岐鎖または2級の炭化水素基を表し、mは2以上の数であり、hは1以上の数であり、kおよびnは独立に0～1000の範囲の数である。R¹、R²およびR⁴の炭素数は2～4、R³の炭素数は1～10、R⁵の炭素数は8～36であることが好適である。またmは好ましくは2、hは好ましくは1であり、kは1～500が好ましく、100～300がより好ましく、100～150が特に好ましい。またnは1～200が好ましく、10～

100がより好ましく、10～50が特に好ましい。

[0016] 上記一般式(1)で表される疎水変性ポリエーテルウレタンは、例えば $R^1-[(O-R^2)_k-OH]_m$ で表される1種または2種以上のポリエーテルポリオールと、 $R^3-(NCO)_{h+1}$ で表される1種または2種以上のポリイソシアネートと、 $HO-(R^4-O)_n-R^5$ で表される1種または2種以上のポリエーテルモノアルコールとを反応させることにより得ることができる。

[0017] この場合、一般式(1)中の $R^1 \sim R^5$ は、用いる $R^1-[(O-R^2)_k-OH]_m$ 、 $R^3-(NCO)_{h+1}$ 、 $HO-(R^4-O)_n-R^5$ により決定される。3者の仕込み比は、特に限定されないが、ポリエーテルポリオールおよびポリエーテルモノアルコール由来の水酸基と、ポリイソシアネート由来のイソシアネート基の比が、 $NCO/OH=0.8:1 \sim 1.4:1$ であることが好ましい。

[0018] その中でも、ポリエチレングリコールの両末端をデシルテトラデシルアルコールで修飾した構造を有し、平均分子量が約5万程度(GPC法)のものが好適に用いられる。このような疎水変性ポリエーテルウレタンの市販品として、例えば、PEG-240/デシルテトラデセス-20/ヘキサメチレンジイソシアネートコポリマーである「アデカノールGT-700」(ADEKA(株)製)等が挙げられる。「アデカノールGT-700」は、上記一般式(1)において、 R^1 、 R^2 、 R^4 が炭素数2、 R^3 が炭素数6、 R^5 が炭素数24の炭化水素基であり、 $m=2$ 、 $h=1$ 、 $k=120$ 、 $n=20$ の化合物に相当する。

[0019] 本発明で用いられる疎水変性ポリエーテルウレタンの含有量は、特に限定されるものではないが、仕上がりのべたつきの低減及び化粧持ちの向上効果に優れることから、化粧料全量中0.03～1.5%とすることが好ましく、0.05～1%がより好ましい。

[0020] また上記成分(a)との含有量の質量比(b)/(a)を0.05～1.5とすることが好ましく、0.1～1.0とすることがより好ましい。このような範囲であると、指や小道具への取れが滑らかになり、また仕上がりのべた

つきが改善される。

[0021] 成分(c)のリン脂質としては、ホスファチジルコリン、ホスファチジルエタノールアミン、ホスファチジルセリン、ホスファチジルグリセロール、ホスファチジリンイノシトール、スフィンゴリン脂質などが挙げられ、これらの類似物あるいはこれらを含む組成物、すなわち大豆レシチン、卵黄レシチン、コーンレシチンあるいはそれらの水素添加物等も含まれる。このリン脂質のうち、好ましいものとしては、大豆レシチンを挙げることができ、更にその水素添加物が好ましい。市販品としては、レシノールS-10E、レシノールS-10EZ（いずれも日光ケミカル社製）、HSL-70（ワイエムシ社製）、ベシスLS-60HR（日清オイリオグループ社製）、レシチンCLO（J-オイルミルズ社製）、卵黄レシチンPL-100P（キューピー社製）等が挙げられる。

[0022] また、成分(c)リン脂質として、リン脂質にコレステロール及び又はフィトステロール等の脂質膜補強剤をあらかじめ混合した複合体を用いることも可能であり、市販品としてPRESOME CS2-101（日本精化株式会社）、PHYTOPRESOME（日本精化株式会社）、PYTOCOMPO-PP（日本精化株式会社）等が挙げられる。

[0023] さらに成分(c)リン脂質は、リン脂質で予め粉体を表面処理したリン脂質処理粉体として化粧料中に配合してもよい。表面処理は、常法に従って、混合や加熱、焼き付け、気相重合法等により行われる。被処理粉体としては、後述する成分(d)の粉体と同様のものが使用できる。リン脂質の粉体への被覆量は、被覆される粉体に対して0.1～8%であることが好ましく、より好ましくは0.5～5%である。

[0024] 本発明で用いられる成分(c)のリン脂質の含有量は、特に限定されるものではないが、化粧料全量中0.03～3.0%が好ましく、0.05～2%がより好ましい。この範囲であると、上記リン脂質処理粉体または後述する成分(d)粉体を配合した場合の粉体の分散安定性が向上し、色ムラが抑制されるとともに、仕上がりのべたつきが低減され、さらに経時での化粧持

ちも向上する。

[0025] 本発明の化粧料において、成分(c)は上記リン脂質処理粉体として配合される他、リン脂質単体、あるいはリン脂質を含む乳化組成物ないし複合体の形態で配合され得るが、リン脂質処理粉体と、リン脂質またはこれを含有する乳化組成物ないし複合体とを、ともに配合することも可能であり、このように併用することによって、リン脂質処理粉体または後述する(d)粉体を配合した場合の粉体の分散安定性向上、仕上がりのべたつき低減、経時での化粧持ち向上などの効果がより顕著なものとなる。

[0026] 本発明の化粧料は、さらに成分(d)として、上記リン脂質処理粉体以外の粉体を配合することが好ましい。この粉体は様々な化粧効果を付与するために配合されるものであり、通常の化粧料に用いられる粉体を任意に用いることができ、板状、紡錘状、針状等の形状、煙霧状、微粒子、顔料級等の粒子径、多孔質、無孔質等の粒子構造等により特に限定されず、無機粉体類、光輝性粉体類、有機粉体類、色素粉体類、複合粉体類等が例示できる。具体的には、コンジョウ、群青、ベンガラ、黄酸化鉄、黒酸化鉄、酸化チタン、酸化亜鉛、無水ケイ酸、酸化アルミニウム、酸化セリウム、酸化マグネシウム、酸化ジルコニウム、炭酸マグネシウム、炭酸カルシウム、酸化クロム、水酸化クロム、カーボンブラック、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸マグネシウム、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、雲母、合成雲母、合成セリサイト、セリサイト、タルク、カオリン、炭化珪素、硫酸バリウム、窒化硼素等の無機粉体類、オキシ塩化ビスマス、雲母チタン、酸化鉄処理雲母、酸化鉄処理雲母チタン、有機顔料処理雲母チタン、二酸化珪素・酸化チタン被覆雲母、酸化チタン処理ガラス末、酸化鉄酸化チタン処理ガラス末、アルミニウムパウダー等の光輝性粉体類、ステアリン酸マグネシウム、ステアリン酸亜鉛、N-アシルリジン、ナイロン等の有機粉体類、有機タール系顔料、有機色素のレーキ顔料等の色素粉体類、微粒子酸化チタン被覆雲母チタン、微粒子酸化亜鉛被覆雲母チタン、硫酸バリウム被覆雲母チタン、酸化チタン含有二酸化珪素、酸化亜鉛含有二酸化珪素等の複合粉体、無水ケイ酸等が挙げられ、

これらの1種又は2種以上を用いることができる。またこれらの粉体の2種以上を複合化した複合粉体を用いても良い。

[0027] また、成分(d)の粉体は表面を成分(c)のリン脂質以外の表面処理剤により改質処理を施したものであっても良い。例えば、粉体を疎水化する際に用いられる処理剤として、フッ素系化合物、シリコン系化合物、N-ラウロイル-L-レシジン、金属石鹸、炭化水素、高級脂肪酸、高級アルコール、エステル、ワックス、ロウ、界面活性剤等が挙げられ、これらを組み合わせた複合処理を行ってもよい。表面処理は、常法に従って、混合や加熱、焼き付け、気相重合法等により行うことができる。

[0028] 成分(d)の含有量は、特に限定されるものではないが、様々な化粧効果を付与する観点から化粧料全量中0.1~20%であることが好ましい。

[0029] 本発明の化粧料には、さらに成分(e)の水溶性粘着剤を配合することが好適である。具体的には、メチルセルロース、ヒドロキシメチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、カルボキシメチルセルロース等のセルロース誘導体；アルギン酸ソーダ、カラギーナン、クインシードガム、ペクチン、ヒアルロン酸等の天然多糖類；アクリル酸／アクリル酸アルキルコポリマー、ポリビニルアルコール、ポリアクリル酸ソーダ、ポリメタクリル酸ソーダ、ポリアクリル酸グリセリンエステル、ポリビニルピロリドン、ジェランガム等の合成高分子等が挙げられ、中でも、アクリル酸／アクリル酸アルキルコポリマー、カラギーナン、ジェランガム、ヒアルロン酸等が、小道具等への取れや経時での化粧持ち等に優れるため好ましい。

[0030] 成分(e)の水溶性粘着剤の含有量は、化粧料全量中0.001~1%が好ましく、0.005~0.5%がより好ましい。この範囲であれば小道具等への取れが良好となり、また化粧持ち等にも優れたものとなる。

[0031] 本発明の化粧料の剤型としては特に限定されず、水性、水中油型、油中水型等のいずれでもよいが、小道具等への取れや化粧持ちなどの効果が顕著に発揮され得ることから水中油型が好ましい。

[0032] 水中油型の剤型とする場合、水相を構成する成分として、水その他、1, 3-ブチレングリコール、ジプロピレングリコール、グリセリン、プロピレングリコール、ポリプロピレングリコールなどの多価アルコールもしくはその重合体、ソルビトール、マルチトール、グルコースなどの糖アルコールなどの水性成分が使用できる。水性成分の含有量としては、良好な取れと塗布時の滑らかな伸び広がりを実現するという観点から、化粧料全量中の20～95%であることが好ましい。

[0033] 一方、油相を構成する油剤としては、上記成分(c)リン脂質以外の通常化粧品に用いられる油剤を使用することができ、固形油、半固形油、液体油、揮発性油等の性状や動物油、植物油、合成油等の起源を問わず、炭化水素類、油脂類、ロウ類、エステル油類、脂肪酸類、高級アルコール類、シリコーン油類、フッ素系油類、ラノリン誘導体類、油ゲル化剤等を使用することができる。例えば、流動パラフィン、マイクロクリスタリンワックス、ワセリン、ミネラルオイル、水添ポリイソブテン等の炭化水素類；オリーブ油、ホホバ油、ミンク油、モクロウ等の油脂類；ミツロウ、キャンデリラロウ等のロウ類；イソオクタン酸セチル、ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ジオクタン酸ネオペンチルグリコール、コレステロール脂肪酸エステル、ホホバ油、トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル、トリカプリン酸グリセリル、パラメトキシケイ皮酸2-エチルヘキシル等のトリグリセライド、パルミチン酸イソプロピル、ミリスチン酸オクチルドデシル、トリオクタン酸グリセリル、ジイソステアリン酸ポリグリセリル、トリイソステアリン酸ジグリセリル、トリベヘン酸グリセリル、ロジン酸ペンタエリトリットエステル、ジオクタン酸ネオペンチルグリコール、コレステロール脂肪酸エステル、N-ラウロイル-L-グルタミン酸ジ(コレステリル・ベヘニル・オクチルドデシル)等のエステル油類、ステアリン酸、オレイン酸等の脂肪酸；セタノール等の高級アルコール類；メチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、三次元架橋構造を有するジメチルポリシロキサン重合体等のシリコーン油類、ラノリン

脂肪酸イソプロピル、ラノリンアルコール等のラノリン誘導体等が挙げられ、これらの1種又は2種以上を組み合わせ使用することができる。油剤の含有量は、剤型により異なるが、化粧料全量中3～50%が好ましく、5～20%がより好ましい。

[0034] 本発明の化粧料には、上記成分の他、通常の化粧料に用いられる成分、例えば、界面活性剤、保湿剤、防腐剤、酸化防止剤、pH調整剤、金属キレート剤、紫外線吸収剤、美容成分、香料等を本発明の効果を損なわない範囲で適宜配合することができる。

[0035] 本発明の化粧料は、上記必須成分(a)～(c)及び必要に応じて使用される成分(d)～(e)その他任意成分を公知方法に従って均一に混合することにより製造することができる。例えば、上記成分(a)～(d)、水性成分及び油剤等の油性成分を用いて水中油型化粧料とする場合、以下の工程(1)～(5)を含む製法により製造することができる。

(1) 成分(d)等の粉体原料を均一に分散混合する。その際に、成分(c)リン脂質を分散剤として作用させることができる。

(2) 成分(a)及び(b)を水中に均一に混合溶解した後、工程(1)で得られた粉体の混合物を添加・混合する。

(3) 油剤等の油性成分を均一に加温溶解する。成分(c)をここで添加して、次の工程(4)において乳化分散剤として作用させてもよい。

(4) 水などの水性成分を均一に加温溶解した後、工程(3)で得られた油性成分の混合物に添加・乳化し、攪拌しながら冷却する。

(5) 工程(4)で得られた乳化物を、工程(2)で得られた混合物に添加・混合し冷却して水中油型化粧料を得る。

[0036] 本発明の化粧料の種類は、特に限定されず、美容液、乳液、下地、リキッドファンデーション、BBクリーム、リキッドアイカラーなどに適用可能である。またその形態も特に制限されるものではなく、固形状、ゲル状、クリーム状、液状等のあらゆる形態とすることができる。その中でも、室温にて固形状ないしゲル状の形態が好ましく、特にゲル状であると、取れの滑らか

さや経時での化粧持ち等において、本発明の効果が顕著に発揮されやすいため好適である。このような本発明のゲル状化粧料は、従来のゲル状化粧料とは異なる特性を有する。すなわちこの化粧料は、通常の状態では流動性のないゲル状であるが、上部からパフ等でゆっくりと押下げると表面がリキッド状となるため、パフ等の塗布面に均一に付着し、肌上でも滑らかに伸び広がり、その後再びゲル化して均一な化粧膜を形成する。さらに、化粧膜表面を小道具で軽く叩くように仕上げる（叩き込み）と、化粧膜はゲル状を維持したまま展延、重ね塗りされるため、その表面が徐々に平滑化され、より均一で色ムラがなく滑らかな化粧膜を得ることができる。より具体的には、 15 mm/sec 以下、好ましくは 5 mm/sec 以下の速度でパフ等の小道具を化粧料表面に押しあてて化粧料を小道具に転写し、転写した化粧料を皮膚に塗布した後、塗布した化粧料表面に 20 mm/sec 以上、好ましくは 30 mm/sec 以上の速度で小道具を押しあて、次いで同じ範囲の速度で化粧料表面から小道具を引き離すことによって、より均一で平滑な化粧膜を形成することが可能である。転写時に小道具を化粧料表面に押しあてる速度の下限値は 0.1 mm/sec 程度である。小道具を化粧料表面から引き離す際の速度も押しあてる際と同程度とすればよい。一方、仕上げの叩き込みの際に、小道具を塗布した化粧料表面に押しあてる速度の上限値は 50 mm/sec 程度である。化粧料を転写する際又は叩き込みの際に、小道具を化粧料に押しあてる力は $0.5\sim 2\text{ N}$ 程度である。

[0037] したがって、本発明のゲル状化粧料は、塗布面を有するパフで、上からゆっくりと押し下げるという使用法に適した容器と組み合わせることが好適である。このような容器として、例えば、ゲル状化粧料を収納する容器本体、前記容器の内壁に沿って設けられた弾性部材、前記容器上面形状に対応した保持枠にメッシュを保持し、化粧料表面上に設けられたメッシュ部材、および前記容器の蓋部を備える化粧料容器であって、前記弾性部材の上には前記メッシュ部材の保持枠が載置され、前記メッシュは弾性を有し、かつパフの塗布面で、前記メッシュ部材を押し下げたときに、まず前記メッシュが撓み

、次いで前記メッシュ保持枠を介してして力が前記弾性部材に伝わることで、当該弾性部材も撓むように構成されたものが好適に用いられる。

[0038] 図1、2は本発明のゲル状化粧料に適した容器の1例である。図1は、蓋を取り去った状態を示す平面図であり、図2は、その部分断面図である。図中、1は容器、2は容器本体、3は蓋、4はメッシュ部材、5は弾性部材、6は鍔部、7は係止突起、8は弾性部材収納部、9は底部堤状構造をそれぞれ示し、Aは本発明のゲル状化粧料を示す。

[0039] 上記態様の容器1は、図2に示すように、上部外面に蓋3と螺合させるためのねじ山が切られ、上部内面には、後記するメッシュ部材4に係止するための係止突起7が設けられている。また、この容器の底部は、中央から周囲に向かって、弾性部材5の所まで順次高くなるように底部堤状構造9が形成されており、その後、落ち込んで弾性部材収納部8を構成している。弾性部材5は、この弾性部材収納部8と、係止突起7で係止されるメッシュ部材4により、容器本体2の内周部に保持される。

[0040] 図1は、容器1の蓋3を取った状態で、上面から見た際の形状、すなわち、その平面的形状を示す。この態様では、円であるが、容器の平面的形状はこれに限らず、使用するパフの形状に合わせ、楕円、四角形または正多角形とすることもできる。また、容器本体2は、高さに比べ直径が大きな扁平な形状なものが好ましく、その材質は、一般的に化粧料容器として使用されているもの、例えば、プラスチック、ガラスあるいは金属等を使用することができる。なお、容器本体2の底部堤状構造9は、前記したような弾性部材収納部8を形成するという機能だけでなく、充填されたゲル状化粧料Aを最後まで取りやすくするという機能も有する。

[0041] 容器本体2に充填したゲル状化粧料Aの上部に設置されるメッシュ部材4は、メッシュ4aと保持枠4bより構成される。このうち、メッシュ4aは、弾性のある繊維、例えば、10～100デニール程度の、ポリエステル、ポリウレタン、ナイロン、レーヨン、絹等で形成されたシートであり、その目開きは、0.3mmないし5mm程度が好ましい。一方、このメッシュ4a

を保持する保持枠 4 b は、その平面形状が容器本体 2 の平面形状とほぼ同一で、その中央開口部にメッシュ 4 a を取り付けただけのものであり、容器本体 2 とは結合されておらず、上側の鍔部 6 により容器本体 2 の係止突起 7 で係止されている。この保持枠 4 b は、後記弾性部材 5 を押し下げるのに十分な強度を有するものである。

[0042] 本発明のゲル状化粧料に好ましく使用できるパフの例としては、図 3 に示すような、スポンジパフ 20 を挙げることができる。このパフ 20 では、上面 21、下面（塗布面）22、側面 23 を有するおおよそだるま状の軸対称形に形成されている。そして、側面 23 の中心よりも上面 21 側には、他の部分よりも横断面の面積値が小さくなるように絞り込まれたクビレ部 24 が形成されており、クビレ部 24 と上面 21 との間には、拡径方向へ膨出する胴張り部 25 が、さらに、クビレ部 24 と下面 22 との間には、拡径方向へ膨出する胴張り部 26 がそれぞれ形成されている。

[0043] このパフ 20 では、前記上面 21 と前記下面 22 の間に横断面の面積値が最小となるクビレ部 24 を有し、当該下面 22 は塗布面となる平坦面により構成され、当該下面 22 とこれに最も近い胴張り部 26 との間の領域が塗布部と形成するとともに、下面 22 が塗布面を形成し、この下面 22 をメッシュ 4 a を介してゲル状化粧料 A 表面をゆっくりと押すことで、均一にゲル状化粧料を取ることができる。

[0044] 本発明の化粧料を収容する容器や塗布するための小道具は、上記態様に制限されるものではなく、種々の形態の容器や小道具を使用できる。

実施例

[0045] 以下に実施例を挙げて、本発明を更に説明する。なお、これらは本発明を何ら限定するものではない。

[0046] 実施例 1 ～ 9 および比較例 1 ～ 10 ; 水中油型リキッドファンデーション

表 1、表 2 に示す組成および下記製法にてリキッドファンデーションを調製し、下記評価方法により、＜I＞取れの滑らかさ、＜II＞化粧膜の色ムラの

なさ、＜III＞仕上がりのべたつきのなさ、＜IV＞経時での化粧持ちの評価を行った。結果を表1、2に併記する。

[0047] [表1]

成 分		実施例			比較例						
		1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
1	タルク	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
2	二酸化チタン	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
3	黄酸化鉄	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
4	ベンガラ	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
5	黒酸化鉄	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
6	リン脂質処理タルク *1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	リン脂質処理酸化チタン *1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	リン脂質処理黄酸化鉄 *1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	リン脂質処理ベンガラ *1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	リン脂質処理黒酸化鉄 *1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	シリコン処理タルク *2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	シリコン処理酸化チタン *2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	リン脂質	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	-	-
14	1,3-ブチレングリコール	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
15	流動パラフィン	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
16	パラオキシベンジル酸 2-エチルヘキシル	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
17	ヘニルアルコール	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
18	リン脂質	1	1	1	1	1	1	1	1	-	-
19	ステアリン酸 Na	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
20	ポリステアリン酸スクロース	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
21	1,3-ブチレングリコール	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
22	精製水	20.7	20.7	20.7	20.7	20.7	20.7	20.7	20.7	20.7	20.7
23	香料	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
24	パラオキシ安息香酸メチル	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
25	ジブチレングリコール	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
26	寒天 *4	0.5	1	0.1	-	0.5	-	-	0.5	0.5	0.5
27	疎水変性ポリエーテルウレタン *5	0.5	0.1	1	0.5	-	0.5	0.5	-	0.5	0.5
28	カルボキシニルポリマー	-	-	-	-	-	0.5	-	0.5	-	-
29	キサンタンガム	-	-	-	-	-	-	0.5	-	-	-
30	アクリル酸/アクリル酸アルキルポリマー	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25
31	精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
評価項目及び評価結果											
I	取れの滑らかさ	◎	○	○	×	△	○	△	△	○	○
II	化粧膜の色ムラのなさ	○	◎	○	△	△	○	○	○	○	×
III	仕上がりのべたつきのなさ	◎	○	◎	△	×	△	×	△	△	×
IV	経時での化粧持ち	○	○	◎	△	△	×	×	△	×	×

[0048] [表2]

成 分		実施例						比較例		
		4	5	6	7	8	9	8	9	10
1	タルク	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	二酸化チタン	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	黄酸化鉄	-	-	-	-	-	2	-	-	2
4	ベンガラ	-	-	-	-	-	0.6	-	-	0.6
5	黒酸化鉄	-	-	-	-	-	0.3	-	-	0.3
6	リン脂質処理タルク *1	3	3	3	3	3	-	3	3	-
7	リン脂質処理酸化チタン *1	10	10	10	10	10	-	10	10	-
8	リン脂質処理黄酸化鉄 *1	2	2	2	2	2	-	2	2	-
9	リン脂質処理ベンガラ *1	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	-	0.6	0.6	-
10	リン脂質処理黒酸化鉄 *1	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	-	0.3	0.3	-
11	シリコン処理タルク *2	-	-	-	-	-	3	-	-	3
12	シリコン処理酸化チタン *2	-	-	-	-	-	10	-	-	10
13	リン脂質	-	-	-	-	-	0.5	0.5	0.5	-
14	1,3-ブチレングリコール	8	8	8	8	8	8	8	8	8
15	流動パラフィン	5	5	5	5	5	5	5	5	5
16	パラオキシステイラ酸 2-エチルヘキシル	3	3	3	3	3	3	3	3	3
17	ヘキシルアルコール	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
18	リン脂質	1	1	1	-	-	1	1	1	-
19	ステアリン酸 Na	-	-	-	1	-	-	-	-	1
20	ポリステアリン酸スクロース	-	-	-	-	1	-	-	-	-
21	1,3-ブチレングリコール	5	5	5	5	5	5	5	5	5
22	精製水	20.7	20.7	20.7	20.7	20.7	20.7	20.7	20.7	20.7
23	香料	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
24	パラオキシ安息香酸メチル	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
25	ジブチレングリコール	10	10	10	10	10	10	10	10	10
26	寒天 *4	0.5	1	0.1	0.5	0.5	0.5	-	0.5	0.5
27	疎水変性ポリエーテルウレタン *5	0.5	0.1	1	0.5	0.5	0.5	0.5	-	0.5
28	カルボキシビニルポリマー	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29	キサンタンガム	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30	アクリル酸/アクリル酸アルキルポリマー	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25
31	精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
評価項目及び評価結果										
I	取れの滑らかさ	◎	○	◎	◎	◎	◎	×	△	○
II	化粧膜の色ムラのなさ	◎	◎	◎	○	○	○	○	△	△
III	仕上がりへのべたつきのなさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	△
IV	経時での化粧持ち	◎	◎	◎	○	○	○	△	△	×

[0049] *1 水素添加大豆リン脂質（PC純度60～85%）2%処理

*2 ジメチコン（20cs）2%処理

*3 トリエトキシカプリリルシラン3%処理

*4 ウルトラ寒天AX-100CS（伊那食品工業社製）

*5 アデカノールGT-700（ADEKA社製）

[0050]（製法）

A. 成分（1）～（13）を三本ローラーにて均一に分散する。

B. 成分（23）～（31）を均一に混合しながら加温溶解し、Aを添加する。

C. 成分（14）～（20）を70℃にて均一に加温溶解する。

D. 成分（21）（22）を70℃にて均一に加温溶解し、Cに添加して乳化し、攪拌しながら冷却する。

E. DをBに添加混合し、冷却後に脱泡した。

F. Eを80℃にて溶解後、直径5cmのプラスチック製ジャー容器（図1～2参照）に60℃で充填し、水中油型リキッドファンデーションを得た。

[0051]（評価方法）

評価項目<I>取れの滑らかさ、<II>化粧膜の色ムラのなさ、<III>仕上がりへのべたつきのなさ、<IV>経時での化粧持ちについて、各試料を専門パネル10名による使用試験を行い、パネル各人が下記評価基準にて7段階に評価し評点を付け、パネル全員の評点から、その平均値を算出し、下記判定基準により4段階で判定した。なお、<I>取れの滑らかさについては、ジャー容器（図1～2参照）に充填したサンプルを、ナイロン製メッシュの上から、直径3cmの円柱形パフ（図3参照）で軽く押し、パフへの取れを評価した。また、<IV>経時での化粧持ちについては、サンプルを塗布して8時間後の化粧膜の持ち具合を評価した。

[0052]（評価基準）

（評点）：（評価）

6：非常に良い

5：良い

4：やや良い

- 3 : 普通
2 : やや悪い
1 : 悪い
0 : 非常に悪い

(判定基準)

- (評点の平均点) : (判定)
5.0以上 : ◎ (非常に良好)
3.5以上5.0未満 : ○ (良好)
1.5以上3.5未満 : △ (普通)
1.5未満 : × (不良)

[0053] (結果)

表1の結果から明らかなように、(a)寒天、(b)疎水変性ポリエーテルウレタン(c)リン脂質を使用した本発明の水中油型リキッドファンデーションは、再度加熱して充填することにより、成分(a)の寒天が均一にゲルをつくりながらも、成分(b)の疎水変性ポリエーテルウレタンとの組合せで、ゲルに適度な崩壊性を付与することによって、<I>取れの滑らかさ、<II>化粧膜の色ムラのなさ、<III>仕上がりのべたつきのなさ、<IV>経時での化粧持ちのいずれの項目においても優れたものであり、(a)と(b)の含有比率を変更しても同様であった(実施例1~3)。

これに対し、成分(a)の寒天が配合されていない比較例1は、パフへの取れが悪く、また粉体の分散安定性に劣り化粧膜の色ムラが目立つものとなり、寒天をカルボキシビニルポリマーまたはキサントガムに置き換えても、仕上がりのべたつきや化粧持ちにおいて著しく劣るものであった(比較例3, 4)。また成分(b)の疎水変性ポリエーテルウレタンを欠く比較例2は、パフへの取れが悪く、特に仕上がりのべたつきの点で劣っており、疎水変性ポリエーテルウレタンをカルボキシビニルポリマーに置換しても、べたつきや化粧持ちなどにおいて劣るものであった(比較例5)。さらに、成分(c)のリン脂質をステアリン酸ナトリウムまたはポリステアリン酸スクロ

ースに置換した比較例 6, 7 も、べたつきや化粧持ちなどの点で不十分なものであった。

[0054] また表 2 の結果から、さらにリン脂質処理粉体を使用した実施例 4 ~ 6 は、いずれの項目においても非常に優れたものとなった。一方、リン脂質処理粉体を配合していても、成分 (a) または (b) を欠く比較例 8, 9 ではパフへの取れやべたつき等の点で不十分なものであった。また、リン脂質処理粉体に代えてシリコーン処理粉体を用いても、色ムラや化粧持ちにおいて劣るものとなった (比較例 10)。

[0055] 実施例 10 水中油型下地

下記に示す組成および製法で水中油型下地を調製した。

[0056] (組成)

	(%)
(1) レシチン処理酸化チタン	4. 0
(2) レシチン処理ベンガラ	0. 08
(3) レシチン処理黄酸化鉄	0. 40
(4) レシチン処理黒酸化鉄	0. 04
(5) レシチン処理タルク	1. 0
(6) 1, 3 - ブチレングリコール	2. 0
(7) セスキオレイン酸ソルビタン	0. 2
(8) ミネラルオイル	1. 4
(9) トリ 2 - エチルヘキサン酸グリセリル	0. 6
(10) メトキシケイヒ酸エチルヘキシル	2. 0
(11) ステアリン酸トリエタノールアミン	1. 0
(12) セトステアリルアルコール	0. 5
(13) 精製水	3. 0
(14) パラオキシ安息香酸メチル	適 量
(15) 寒天	2. 0
(16) グリセリン	0. 5

(17) 1, 3-ブチレングリコール	10.0
(18) 疎水変性ポリエーテルウレタン	0.3
(19) 精製水	残 量

[0057] (製法)

- A. 成分(14)～(19)を90℃にて均一に混合溶解する。
- B. 成分(1)～(7)を三本ローラーにて均一に分散処理し、Aに攪拌しながら添加する。
- C. 成分(8)～(12)を75℃で均一に加温溶解する。
- D. 成分(13)を75℃に加温し、Cにホモディスパー(2.5型; P R I M I X社製)にて攪拌しながら添加する。
- E. 攪拌しながら冷却したDを、Bに攪拌しながら添加する。
- F. 冷却後に脱泡した後、再度、75℃で加温溶解後、55℃にて塗布体付きチューブ容器に充填し、水中油型下地を得た。

[0058] 以上のようにして得られた実施例10の水中油型下地は、粉体の分散安定性が良好で色ムラがなく、取れの滑らかさ、仕上がりのべたつきのなさ、経時での化粧持ちも極めて良好なものであった。

[0059] 試験例1

実施例1の化粧料をジャー容器(図1～2参照)に充填し、ナイロン製メッシュの上から、直径3cmの円柱形パフ(図3参照)でゆっくりとスタンブ様に3回押しつけて化粧料を取り、バイオスキンプレートNo.10A(ビューラックス社製)に伸ばして塗布した後、同パフで塗布した化粧料表面を3回ポンポンと叩き込みをした。共焦点レーザースキャン顕微鏡LSM-700(ZEISS社製)にて、叩き込み前と叩き込み後の化粧料表面の状態を撮像した。その結果を図4に示す。

また実施例1又は比較例5の化粧料を人工皮革(サプラレ: 出光テクノファイン社製)に塗布し厚さ200umの塗膜を形成した。テクスチャーアナライザー(英弘精機社製)を用いて、この塗膜にシリンダー状プローブ(直径2.5cm)を20gの力で5秒間押しつけた後、速度40mm/sec又は速度0.5mm/secで引き

離した際の荷重値（g）を測定した。その結果（最大荷重値）を図5に示す。

[0060] 図4より、実施例1の化粧料を、伸ばして塗布した状態（a）に比べて、さらにスポンジで3回叩き込みをした後の状態（b）は、塗膜表面がきれいに平滑化されており、実使用においても、肌の細かい凹凸を隠して、より均一な化粧膜が形成されることが確認できる。また、その理由として、本発明の化粧料は、小道具を化粧料表面から引き離す際の速度が速いと、粘着性が小さくなる特性を有することが挙げられる。図5の値の大きさは、小道具と化粧料表面の粘着性の大きさに比例するが、比較例5では、化粧料との引き離し速度が速くなると荷重値が大きくなるのに対して、実施例1では化粧料との引き離し速度が速い方が、より低い荷重値を示す傾向がある。これは、小道具を化粧料表面にゆっくり押しあてると、化粧料が小道具に転写され、仕上げにポンポンと叩き込む際には、塗布した化粧料表面と小道具の引き離し速度が速いため、べたつかずに塗膜表面がきれいに平滑化できることを示している。

産業上の利用可能性

[0061] 本発明の化粧料は、指や小道具への取れが良好で、皮膚上で滑らかに伸び広がり、べたつきがなく均一な化粧膜が形成され、美しく仕上がるとともに、化粧持ちにも優れるものである。したがって、メイクアップ化粧料等として好適に利用できるものである。

符号の説明

[0062] 1 … … 容器
 2 … … 容器本体
 3 … … 蓋
 4 … … メッシュ部材
 4 a … … メッシュ
 4 b … … 保持枠
 5 … … 弾性部材

6	...	...	鰐部
7	...	...	係止突起
8	...	...	弾性部材収納部
9	...	...	底部堤状構造
A	...	...	ゲル状化粧料
20	...	...	パフ
21	...	...	上面
22	...	...	下面
24	...	...	クビレ部
25	...	...	上胴張り部
26	...	...	下胴張り部

請求の範囲

[請求項1] 次の成分（a）～（c）：

（a）寒天

（b）下記一般式（1）：



〔式中、 R^1 、 R^2 および R^4 は、互いに同一でも異なっても良い炭化水素基を表し、 R^3 はウレタン結合を有していても良い炭化水素基を表し、 R^5 は直鎖、分岐鎖または2級の炭化水素基を表し、 m は2以上の数であり、 h は1以上の数であり、 k および n は独立に0～1000の範囲の数である。〕

で表わされる疎水変性ポリエーテルウレタン

（c）リン脂質

を含有することを特徴とする化粧品。

[請求項2] 成分（b）と成分（a）の含有量の質量比（b）／（a）が0.05～1.5である請求項1記載の化粧品。

[請求項3] 成分（a）の含有量が0.05～3質量％である請求項1または2記載の化粧品。

[請求項4] 成分（b）の含有量が0.03～1.5質量％である請求項1ないし3のいずれかの項記載の化粧品。

[請求項5] 成分（c）の含有量が0.03～3質量％である請求項1ないし4のいずれかの項記載の化粧品。

[請求項6] さらに成分（d）として粉体が配合されている請求項1ないし5のいずれかの項記載の化粧品。

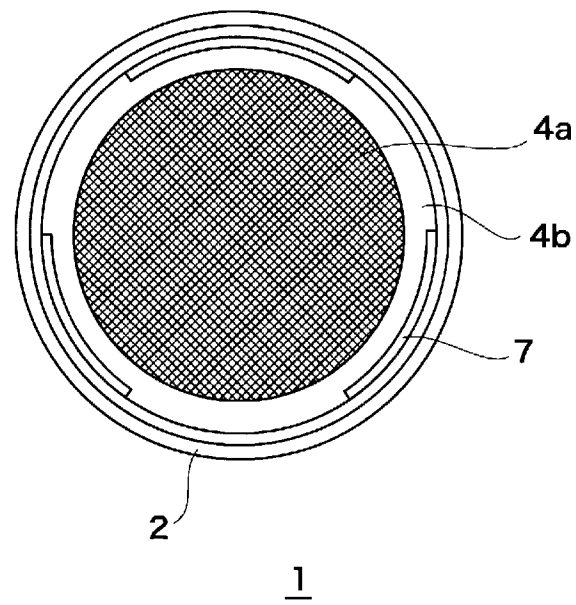
[請求項7] 水中油型である請求項1ないし6のいずれかの項記載の化粧品。

[請求項8] ゲル状である請求項1ないし7のいずれかの項記載の化粧品。

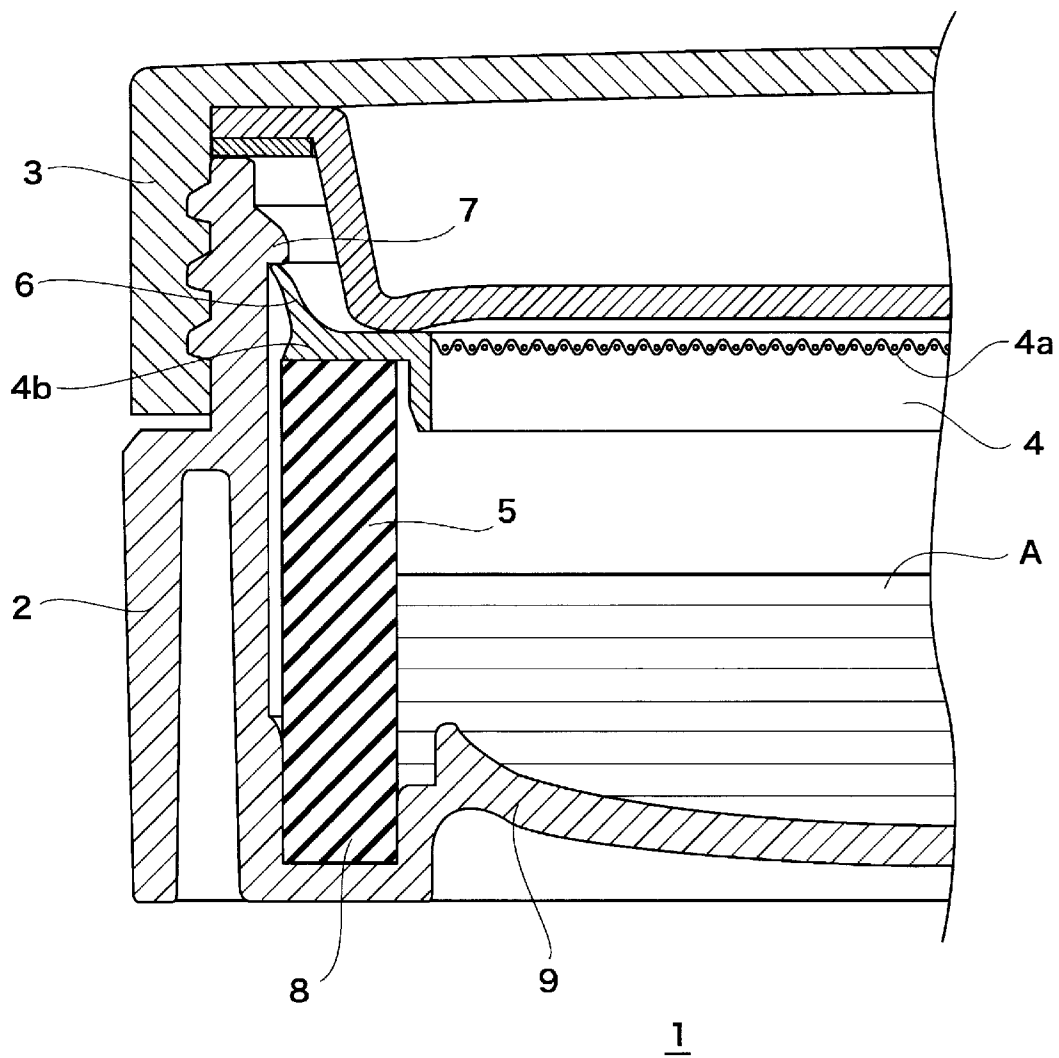
[請求項9] 請求項8記載の化粧品を小道具に転写し、転写した化粧品を皮膚に塗布する化粧方法であって、15mm/sec以下の速度で小道具を化粧品表面に押しあてて転写し、転写した化粧品を皮膚に塗布した後

、20mm/sec以上の速度で、塗布した化粧料表面に小道具を押しあて、次いで化粧料表面から小道具を引き離すことを特徴とする化粧方法。

[図1]

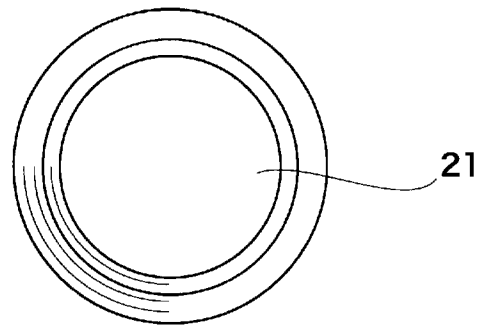


[図2]

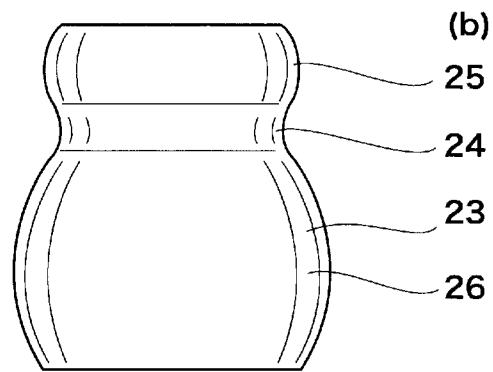


[図3]

(a)

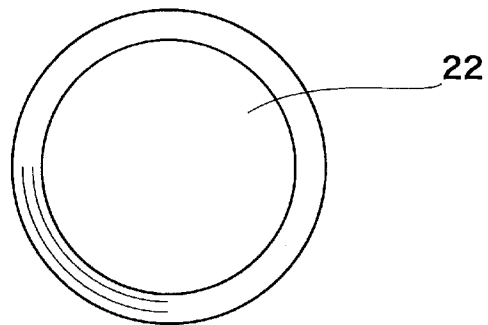
20

(b)

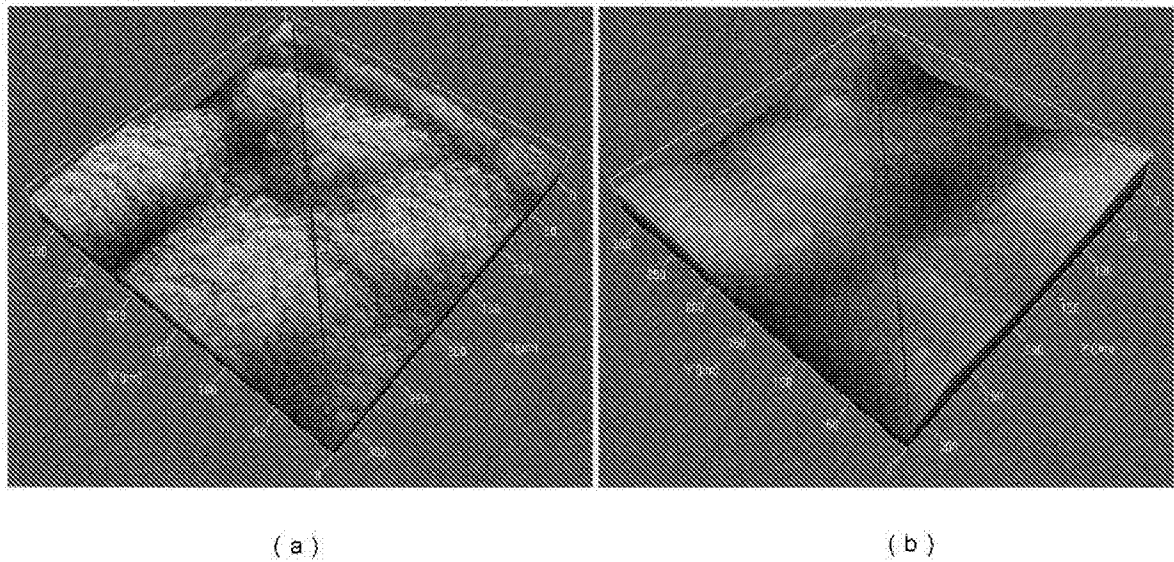
20

(c)

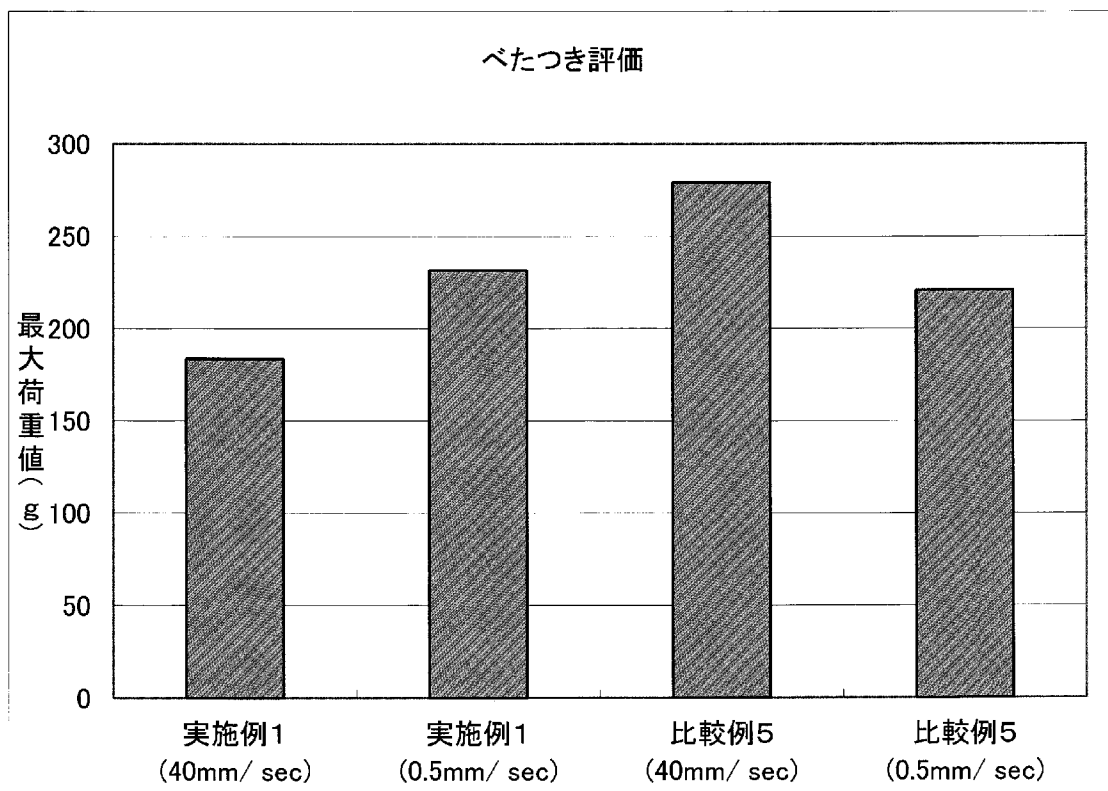
(c)

20

[図4]



[図5]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2015/058828

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A61K8/73(2006.01)i, A61K8/55(2006.01)i, A61K8/87(2006.01)i, A61Q1/02(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A61K8/00-8/99, A61Q1/00-90/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2015
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2015	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2015

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

CAPLUS/REGISTRY (STN)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2002-087929 A (Kose Corp.), 27 March 2002 (27.03.2002), claims; paragraphs [0001] to [0006], [0026] to [0068] (Family: none)	1-9
Y	JP 2000-239120 A (Shiseido Co., Ltd.), 05 September 2000 (05.09.2000), claims; paragraphs [0001] to [0006], [0057] to [0114] & US 6440431 B1 & EP 1013264 A1 & KR 10-2000-0048185 A	1-9
Y	Masa OTAKE, Face Powder, Make-up Beauty Utsukushisa wa Hitotsu dewa Nai, Josei Mode Co., Ltd., 25 September 2005 (25.09.2005), page 60	9

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
 "E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
 "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
 "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
 "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
 "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
 "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
 "&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
10 June 2015 (10.06.15)

Date of mailing of the international search report
23 June 2015 (23.06.15)

Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2015/058828

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 07-017828 A (Kose Corp.), 20 January 1995 (20.01.1995), claims 1 to 2; paragraphs [0010] to [0043] & US 5540921 A & EP 615744 A2	1-9
A	JP 2002-003333 A (Kose Corp.), 09 January 2002 (09.01.2002), paragraphs [0042] to [0043] (Family: none)	1-9
A	JP 2001-342109 A (Kose Corp.), 11 December 2001 (11.12.2001), paragraphs [0050] to [0051] (Family: none)	1-9
A	JP 2012-206994 A (Kose Corp.), 25 October 2012 (25.10.2012), entire text (Family: none)	1-9
A	JP 2005-306849 A (Kose Corp.), 04 November 2005 (04.11.2005), paragraphs [0028] to [0035] (Family: none)	1-9
A	JP 2006-062996 A (Shiseido Co., Ltd.), 09 March 2006 (09.03.2006), paragraph [0232] (Family: none)	1-9
A	JP 2013-193963 A (Shiseido Co., Ltd.), 30 September 2013 (30.09.2013), entire text (Family: none)	1-9
A	JP 2009-234917 A (Shiseido Co., Ltd.), 15 October 2009 (15.10.2009), claims; paragraphs [0005] to [0012], [0062] to [0065], [0117] to [0137] & WO 2008/018541 A1	1-9
A	JP 4979095 B2 (Shiseido Co., Ltd.), 18 July 2012 (18.07.2012), entire text & US 2013/0156831 A1 & WO 2011/136270 A1 & EP 2565233 A1 & CN 102869725 A & KR 10-2013-0094198 A	1-9

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. A61K8/73(2006.01)i, A61K8/55(2006.01)i, A61K8/87(2006.01)i, A61Q1/02(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. A61K8/00-8/99, A61Q1/00-90/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 5 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 5 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 5 年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

CAplus/REGISTRY (STN)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 2002-087929 A（株式会社コーセー）2002.03.27, 特許請求の範囲, [0001]-[0006], [0026]-[0068]（ファミリーなし）	1-9
Y	JP 2000-239120 A（株式会社資生堂）2000.09.05, 特許請求の範囲, [0001]-[0006], [0057]-[0114] & US 6440431 B1 & EP 1013264 A1 & KR 10-2000-0048185 A	1-9
Y	マサ大竹, フェースパウダー, MAKE-UP BEAUTY 美しさはひとつではない, 株式会社女性モード社, 2005.09.25, 第60頁	9

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

1 0 . 0 6 . 2 0 1 5

国際調査報告の発送日

2 3 . 0 6 . 2 0 1 5

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（I S A / J P）
郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

中村 泰三

4 Q

5 5 7 6

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 4 6 8

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	JP 07-017828 A (株式会社コーセー) 1995. 01. 20, 請求項 1-2, [0010]-[0043] & US 5540921 A & EP 615744 A2	1-9
A	JP 2002-003333 A (株式会社コーセー) 2002. 01. 09, [0042]-[0043] (ファミリーなし)	1-9
A	JP 2001-342109 A (株式会社コーセー) 2001. 12. 11, [0050]-[0051] (ファミリーなし)	1-9
A	JP 2012-206994 A (株式会社コーセー) 2012. 10. 25, 全文 (ファミリーなし)	1-9
A	JP 2005-306849 A (株式会社コーセー) 2005. 11. 04, [0028]-[0035] (ファミリーなし)	1-9
A	JP 2006-062996 A (株式会社資生堂) 2006. 03. 09, [0232] (ファミリーなし)	1-9
A	JP 2013-193963 A (株式会社 資生堂) 2013. 09. 30, 全文 (ファミリーなし)	1-9
A	JP 2009-234917 A (株式会社資生堂) 2009. 10. 15, 特許請求の範囲, [0005]-[0012], [0062]-[0065], [0117]-[0137] & WO 2008/018541 A1	1-9
A	JP 4979095 B2 (株式会社 資生堂) 2012. 07. 18, 全文 & US 2013/0156831 A1 & WO 2011/136270 A1 & EP 2565233 A1 & CN 102869725 A & KR 10-2013-0094198 A	1-9